

歴史と文化が薫るまちづくり事業計画書骨子

—— 大 岩 地 区 ——

平成23年10月

上 市 町

目 次

1	歴史と文化が薫るまちづくり事業モデル地域への考え方	2
2	モデル地域のエリア	3
3	モデル地域内に存在する地域資源	4
4	地域資源の連携方策	9
	(1) 歴史と文化資源をめぐる散策コースの策定	
	(2) 歴史と文化資源を散策するための施設整備	
	(3) 歴史と文化資源を遣った情報発信	
5	歴史と文化が薫るまちをつくる役者たち	10
6	歴史と文化が薫るまちづくりへの施策群	11

1 歴史と文化が薫るまちづくり事業モデル地域への考え方

大岩山日石寺は、立山連峰の裾野にあり、「大岩のお不動さん」と呼び親しまれています。不動明王を本尊とし、その境内には、国指定史跡大岩日石寺石仏、重用文化財大岩日石寺磨崖仏をはじめ、三重の塔、山門、六本滝など数々の寺院や名所があります。

日石寺の創建は神亀^{じんき}2年（725）行基^{ぎょうき}が開いたのが始まりと伝えられています。古くから立山の山岳信仰の一端として寺運も隆盛し最盛期には21社60坊を抱える大寺として名を馳せました。天正年間（1573～92）上杉勢の兵火に遭い多くの堂宇、寺宝、記録が焼失し衰退しましたが正保^{しょうほう}年間（1644～48）に弘寒和尚^{こうかんおしょう}により再興され、さらに加賀藩主前田利常の子宝祈願が成就したことで歴代前田家の祈願所として堂宇^{どうう}が再建されます。本尊である大岩日石寺磨崖仏（国指定重要文化財）は不動明王像、二童子像（矜羯羅童子像・制吒迦童子像）、阿弥陀如来像、僧形像の5体で構成され、中でも不動明王像（像高313.5センチ）と二童子像（像高214センチ）は行基が自ら彫り込んだと伝わるもので（実際は平安時代末期作）大きさや美しさ、保存状態から全国の中でも指折りの磨崖仏とされます。

また、大岩山日石寺の百段坂沿いには、古くからお食事処や旅館が建ち並んでいます。各お店には、「そうめん」や「ところ天」、「山菜」や「川魚」などを提供しており、その中でも「そうめん」が有名で、「そうめん」と言えば大岩山日石寺と言われるくらいです。

平成20年9月に開湯した大岩不動の湯は、大岩山日石寺や城ヶ平登山道からの帰りに汗を流していける場所として人気があります。

しかしながら、近年は百段坂や千巖溪などの周辺施設や門前街としての旅館の老朽化により、今後の景観維持が危惧される状況となっております。

また、大岩地区は、古くからの歴史と文化が存在することから、その情報を集約したパンフレットの作成やお勧め散策コースのガイドマップを作成することで、その魅力を効果的に発信できるものと考えます。

2 モデル地域のエリア



モデル地域内の大岩山日石寺は、上市町を代表とする観光名所であり、歴史資源を多く有しています。

また近くには、城ヶ平登山道や大岩親水公園、大岩不動の湯があることから、大岩地区エリアとして面的整備を行うことで観光客の集客に繋げることが出来ると思われれます。

3 モデル地域内に存在する地域資源

大岩山日石寺



日石寺の創建は神亀2年(725)行基が開いたのが始まりと伝えられています。古くから立山の山岳信仰の一端として寺運も隆盛し最盛期には21社60坊を抱える大寺として名を馳せました。天正年間(1573~92)上杉勢の兵火に遭い多くの堂宇、寺宝、記録が焼失し衰退しましたが正保年間(1644~48)に弘寒和尚により再興され、さらに加賀藩主前田利常の子宝祈願が成就したことで歴代前田家の祈願所として堂宇が再建されます。

大岩山日石寺石仏 不動明王



この石仏は、真言密宗の総本山日石寺の本尊として全国の信者の帰依を集めています。中央に不動明王座像、左右に制吒迦(せいたか)童子立像、矜羯羅(こんがら)童子立像、阿弥陀如来座像、行基菩薩座像が凝灰岩の巨岩に半肉彫りで彫り出されており、中部地方における最高傑作として高い評価を得ています。

不動明王座像は右手に力を現わす剣、左手に智を現わす羂索(けんさく)を持つ迫力ある芸術です。室町時代、上杉勢の兵火に、また、昭和42年に火事にあいましたが、ほとんど損傷をうけることなく今日まで残っています。**(国指定重要文化財)(s5.7.8 指定)**

大岩山日石寺三重塔(町指定有形文化財)



県で最も歴史がある木造の三重塔です。

柱は丸柱で、初重に四天柱と呼ばれる柱、中央に心柱があります。江戸時代の後半の作ですが、工作技法に古い点が見られます。

特色としては、まわりに壁がなく中が丸見えです。これは、建造時に財政難に陥り壁を省略したもののようです。

現在は、近世の社寺建築の工法を知る上で貴重な資料となっています。

愛染堂



平成 17 年建立。

愛染明王は、怒りの形相ではありますが、内心は慈愛の至情をもつ愛の神であります。

現在では、縁結びを願う若い女性の参詣者が多く訪れています。

愛染明王の他、加賀前田家の不動明王、秘石誕生石等が安置されています。

夫婦岩



上層部が二つに分かれている大岩を仲むつまじく夫婦が寄り添うように見えることから「夫婦岩（めおといわ）」と呼ばれ、「夫婦円満、家内安全、縁結び」の象徴、神が宿る場所として祭られています。

山 門



境内正面の山門は元禄年間に建てられたもので、三間一戸、入母屋、棧瓦葺き、楼門形式、上層部には高欄を回し、下層部の両側には仁王像が安置されています。**(上市町指定有形文化財)**

大岩山日石寺の藤水



不動明王の巖石を廻り出る御霊水は、眼病平癒に靈験あり、諸人の願いに御利益があるとされています。また、富山の名水にも選ばれている「大岩山日石寺の藤水」として知られ、人気を集めています。科学的にも硼酸分が含まれていることが証明されています。

昔から、大岩の不動さんは目の病気に効くといわれ、眼病が治った話は数多く伝えられています。加賀藩には名医が多いが眼科医がいないと言われるのは、大岩の不動さんが目を治してくださるので目のお医者さんがいないということを言い表しているように思われます。

百段坂



大岩山日石寺の玄関口の表参道である、百段坂沿いにはお食事処や旅館が建ち並んでいます。

平成22年度には、新たに休憩施設や案内看板が設置されています。

旅館街



大岩山日石寺の百段坂沿いにはお食事処や旅館が建ち並んでいます。各お店には、「そうめん」や「ところ天」、「山菜」や「川魚」などをご提供しています。

中でも「そうめん」が有名で、「そうめん」と言えば大岩山日石寺と言われるくらいです。

富山の美味しい水で作った「そうめん」や地物の料理を是非お召し上がりください。



千巖溪（せんがんけい）



六本滝を横に 130 メートル下ると千巖溪（百滝溪）と呼ばれる溪谷があります。そこには双岩抱き合う妹背岩、外に点空石、炉壇石、鯉梯石、蝦口石等風味溢れる数多くの岩石が自然に配置され、それを縫って清水が流れています。そして至る所に瀧を作り、白雲の崩れる如く、白竜の躍る如く飛沫を上げています。

秋は紅葉の名勝に、春は新緑萌えいづる溪谷の美をほしいままにし、梵鐘の音色と和して、六根清浄の和讃にとけ込んでいます。



大岩不動の湯



平成 20 年 9 月開湯。ナトリウム・カルシウム・硫酸塩・塩化物泉。

地元の杉や桧をたっぷり使った屋内は、木の香りがよく温もりのあるつくりになっています。浴室には、大岩不動明王と六本滝をデザインしたステンドグラスが窓に嵌め込まれ、男女の浴室は日替わりで楽しめるようになっています。

城ヶ平山遊歩道 （別名『茗荷谷山』ともいう。）



大岩山日石寺のふもとに登山口があります。バスのロータリーにトイレがあり、その横の小さな橋を渡っていきます。15分ほど歩くと第一の休憩ベンチ、更に5分ほどで水呑み場とベンチ、20分ほどで丸太のベンチにたどり着きます。谷を下ると4つ目のベンチがあり、20分程度登り続けると、頂上へ出ます。

広々とした平坦な頂上は、柿沢城の山城があったとされ、360度の眺望を望むことが出来ます。毛勝山、劔岳、大日岳などが見えます。下りは、頂上の反対側にある浅生へのルートを巡ります。1時間弱で林を抜けると、道は田んぼの中を通っていきます。登山口からアスファルトの道を下り、大岩まで戻ります。

大岩川登山口【1:10】⇒頂上【0:50】⇒浅生側登山口【0:30】

⇒大岩駐車場

シーズン▶5月～11月（例年、10月上旬に、茗荷谷ウォークが開催されている。）

駐車場▶親水公園上に駐車場が整備されている。



大岩親水公園



平成 11 年に、県の砂防事業により完成した大岩親水公園は、自然石を使うなど周辺環境に配慮した護岸として整備されています。

4 地域資源の連携方策

(1) 歴史と文化資源をめぐる散策コースの策定

大岩山日石寺を中心として栄えた観光地は、古くからの歴史と文化資源が豊富であり、特に夏場は、涼を求めて多くの観光客が訪れています。

大岩地区には、文化財のほか各所に散在している登山道（遊歩道）、溪谷、山林、宿泊施設、温泉等が存在していることから、それらの資源を連携した観光コースを紹介し散策マップ（季節ごとに設定したマップ）を作成するとともに、体験ツアーや会食ツアー等の企画を行うことで大岩地区の新たな魅力を策定したいと考えています。

(2) 歴史と文化資源を散策するための施設整備

急傾斜地が多いことから、散策コースを気持ちよく回ってもらうためにも、安全面に配慮した整備が必要で、風土に合った景観の整備や老朽化した施設等の改修を行います。

また、案内看板はデザインを統一することで観光地としての一体感が生まれイメージアップにつながると考えます。

(3) 歴史と文化資源を遣った情報発信

戦国時代の中世には、昔、城ヶ平山に茗荷谷山城が築かれていたことがあり、古くからの歴史があることや、大岩山日石寺石仏の言い伝えが残っていることなど、歴史と文化資源に関する情報が多いことから、その情報をインターネット等で掲載することでより魅力的な情報発信することが可能と考えます。

5 歴史と文化が薫るまちをつくる役者たち

- ・大岩観光開発の皆さま
大岩山日石寺で行われる、滝開き、「そうめん・山菜まつり」や初詣等のイベントの企画運営に取り組んでいるほか、名物のそうめんや山菜弁当、ごま豆腐の販売も行っており、大岩観光の魅力を発信している。
- ・「上市町観光ボランティアガイドの会」の皆さま
訪れた観光客に対して、大岩地区の歴史を分かりやすく解説することで、大岩観光の新たな魅力を発信している。

6 歴史と文化が薫るまちづくりへの施策群

○ソフト事業

- ・計画の策定（平成 23 年度）
- ・散策マップやルートマップの作成
- ・ホームページの更新
- ・笹団子の復活（特産品 P R）
- ・おもてなし講習

○ハード事業

- ・百段坂の修繕
- ・千巖溪の遊歩道修繕
- ・景観整備（間伐等）
- ・案内看板整備